

進捗状況の概要【1ページ】

本構想において本学が掲げた三つの柱となる事業については、それぞれ計画に沿って実施され、一定の成果を上げている。

A) 世界に開かれた学生受入制度構築とそれを可能にする教学プログラムの整備

本学が1955年から留学生や帰国生を受け入れるために実施して来た9月入学選考をさらに発展させる形で導入を試みているユニヴァーサル・アドミッションズについては、国内外の高校や関係者への調査、ヒアリングを経て、2017年度に「9月入学国際学生入学試験」という形で実施に至っており、さらに2018年度からは「4月入学書類選考」「4月入学国際学生入学試験」を開始する予定である。

この新しい入学選考によって受け入れる学生に対して、適切な語学教育を行なうため、リベラルアーツ英語プログラムおよび日本語教育プログラム（Japanese Language Program. 以下 JLP）に新たな科目も導入された。また、従来、入学時期によって規定されてきた卒業のための語学要件も変更し、学則にも反映させた。

B) 徹底した国際化の取組

開学以来、パイオニアとして取り組んで来た学生交流を中心とした国際交流の実績をふまえ、世界のリベラルアーツ大学がメンバーとなっている Global Liberal Arts Alliance (GLAA) との協働により、新たな教育課程や教育方法の開発に取り組み、特長ある留学プログラムを進めている。GLAA を通して教員研修を実施し、学生を一年のうちに異なる地域の二大学へ派遣する Global Scholar Program に積極的に参加した。また、理系学生の卒業研究を中心とした留学体験を可能にする The College of Wooster (CoW) とのプログラムを開始し、派遣、受入共に実現した。また、交換留学派遣学生や夏期プログラムへの広報や支援を強化し、学生受入の時期の多様化にも対応した結果、学生交流の数の拡大も達成することが出来た。

C) 教育力向上の取組

上記 A)、B) の実施に伴い、受け入れた学生の授業履修にあたっての支援、また授業を実施する教員の支援が一層重要となり、学修・教育センター（Center for Teaching and Learning、以下 CTL）を設置することにより、FD、アドヴァイジング、学生調査も含めた包括的な支援の中心となることを目指し、努力を続けている。

また、学生の語学力の伸長、とりわけ書く力（Writing）の涵養については、英語開講科目履修にあたっての英語による論文作成の支援に特に注力した。また、日本人学生の英語力伸長と、留学生の履修機会の拡大を目指し、英語開講科目増加のための施策について検討する委員会を設置し、その結果として、具体的な方針を打ち出した。

上記、三つの柱に加え、下記についても進めている。

D) 大学の国際化

今回の事業では、GLAA や交換留学協定校との協働による教職員の育成にも努めている。後述するように、英語による授業の教授法の研修に日本人教員を派遣する、あるいは職員が交換留学協定校のセミナーに参加した後、自分の業務の課題について、関連部署でインタビューを行なうなどの研修に参加する機会を作っている。また、教員と職員と一緒に現地調査のため、パートナー校を訪問し、ヒアリングを実施した。

IR 活動の推進も行なっており、その課程で、職員による自主的なプロジェクトとして、ペーパーレス化や業務プロセスの見直しを実施し、活動自体が職員の自己啓発にもつながり、大学の業務効率化にもつながった。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

【学修・教育センターの設置による事業計画の推進】

2015年4月に設置された学修・教育センター（学修教育支援センターより名称変更、Center for Teaching and Learning、以下 CTL）は、従来授業での IT 利用支援を主に行っていた総合学習センターを中心とし、本学のグローバル化をこれまで以上に推進する上で、一層多様化する学生と教員に対応するために統合的支援を行う組織である。設置時には、これまで教養学部の下で行われていた学生調査ならびに FD 機能と、障がい学生の学修支援を担う特別学修支援室を、また 2016 年度からはアドヴァイジングによる履修支援を行うアカデミックプランニング・センターを統合し、幅広い支援を一元的に行うこととした。これにより、学生ならびに教員への窓口対応や FD 活動を通じた直接的な学修・教育支援が充実しただけでなく、カリキュラムや教員の育成に関する制度設計や整備が進んだ。本構想で計画した取組の多くを、CTL を核として着実に実現している。ページ数の関係で、ここでは 2016 年度までの主要な成果についてのみ詳述する。

1) IT を用いた新しい学修支援の推進

2013 年から始まった授業／講義録のコンテンツ公開を行うオープンコースウェア（OCW）に加え、履修授業の選択やメジャー選択の際の重要な情報源として、また予習復習にも活用できるように学内のみで公開する ICU-TV を本事業により導入した。ICU-TV は 2015 年 10 月にサイトをオープンし、就職ガイダンス、留学説明会セミナー、FD ワークショップ等コンテンツを増やし、同年度末までに 46 本のビデオを公開した。OCW については、サイトを公式公開した 2013 年 4 月は 29 であったコース数が、2017 年 12 月には 164 と増え、通常授業の他に、著名なゲストを招いての特別講義やオープンキャンパスのモデル講義も収録されるようになり、本学学生、海外を含む遠方の高校生等に対し、公開の目的であった「知の共有と教育内容の公開」を実現している。学習ソフトとの連携により辞書・音声・字幕の利用も可能になり、学修の困難を抱える学生の助けにもなっている。また、英語で開講されている専門科目において、事前に教員が短い講義を収録し、その動画を学生が見て、実際の授業ではディスカッションを行うといった活用方法も徐々に出来ており、反転授業による学修の質向上と同時に、日本人の学生にとって英語開講科目の履修支援ともなっている。

2) 日英バイリンガル教育推進のための施策実行

「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成事業」採択と同時に始めた「英語開講専門科目履修を通じた情報発信能力（ライティング）の涵養」の取組を発展させるため、リベラルアーツ英語プログラム修了後の英語開講科目の開講と履修の強化、また英語による卒業論文執筆率向上を目指し CTL で以下実行した。

日本人教員が英語の卒業論文を指導する際の負担軽減と、学生のライティング支援のため、英語で執筆される卒業論文のプルーフリード支援を 2016 年度より開始した。

専門科目で英語開講科目を担当する日本人教員を支援するため、EMI（English Medium Instruction）セミナーへ派遣し、英語開講に関する具体的工夫について学ぶ機会を 2016 年度より提供し始めた。また、2015 年度末にシラバス入力システムを改修し、日本語と英語によるバイリンガル表記を徹底し、授業での言語使用について詳述することで（ディスカッション、資料、課題で使用する言語）、学生の履修科目選択の助けとなるよう改善をはかった。

3) 教員育成のための取組（テニユア・トラック制度、メンター制度、TA 制度）

2014 年度より開始した新しいテニユア・トラック制度については、2014 年から 2015 年にかけてテニユア・トラック・ガイドラインやオンラインのポートフォリオの整備を行い、ガイドラインを CTL のウェブサイトです校内向けに公開した。また、テニユア審査の対象となる教員ならびに着任後まもない教員を対象にサポートする立場として、指導や助言などを行うメンター制度を設け CTL が支援を行っている。2016 年度は、2013 年に行った Teaching Assistant（TA）制度改革の効果の検証とさらなる改善のため、新たにシニア TA を 2 名任用し、授業見学や TA と CS（Classroom Supporter、授業に関する事務的な業務を担うアルバイト学生）への実態調査を通じ、TA/CS 運用実態の調査・分析を行った。さらにその結果をふまえ、本学の特性を考慮した今後に向けた改善案と、新しい TA ガイダンス・ワークショップについての提案をまとめた。これらは全学教授会で複数回共有し、学内の教職員向けに CTL のウェブサイトに公開された。